

海運の重要性を学校教育の場で
～東京都内にて出前授業および海事施設の見学会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、中野区立北原小学校 5 年生 48 名を対象に、9 月 19 日（木）に出前授業を実施し、9 月 26 日（木）に日本郵船の協力を得て大井コンテナターミナル（以下大井 CT）の見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【出前授業概要 （9 月 19 日）】

大井 CT を始めとした東京港での社会科見学の事前学習として、まずは船や港がどのように生活に関わっているのか、身近なファミリーレストランや衣料品店を例にして、身の回りのものの多くが外国から船で運ばれてきていることを紹介しました。その後、コンテナ型の小物入れや動画、ワークシート等も活用しながらコンテナおよびコンテナ船に主眼を置いた内容で授業をすすめ、船が運河や海峡を通過、衣服や家具をはじめとする様々な貨物を東京港に運んでいることを説明しました。



（左）出前授業の様子
（右）ワークシートを使って
航路を考える児童たち

【大井 CT 見学会概要（9 月 26 日）】

大井 CT では、①DVD 視聴と担当者の解説を聞いた後、②管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学しました。

① DVD 視聴とターミナル担当者の解説

はじめに、ターミナル管理棟内にある会議室で、コンテナターミナルの概要やコンテナが船に積まれるまでの流れについて解説する DVD を視聴し、コンテナの重さや揚げ地を考慮し緻密な計算に基づいて作成された「ストウェッジプラン（コンテナの積み方を示した計画図）」や「ヤードプラン（ヤード内のコンテナ配置場所を示し



児童の質問に回答するターミナル担当者

た図)」に沿って、効率的で安全な荷役作業が行われていることを学びました。DVD 視聴後は質疑応答の時間が設けられ、普段はクレーン操作をする担当者から回答・解説がありました。児童からは「コンテナはいくらで買えるのか」「船からコンテナが落ちることはあるか」「ドライコンテナとリーファーコンテナの割合は」「高所で行うクレーン操作は怖い」「船は何時間ほどで出航するか」「コンテナの色は何種類あるのか」といった鋭い質問が多数出るなど、関心の高さがうかがえました。

② 管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学

管理棟屋上からは、ターミナルに着岸しているコンテナ船のガントリークレーンによる荷役作業のほか、トランスファークレーンによるコンテナの並び替え、コンテナトレーラーによるコンテナの搬出入など、様々な作業が同時に行われている様子を見ることができました。児童らはコンテナが整然と積み、大きなクレーンが素早くコンテナを積む様子を、メモや写真をとりながら熱心に見学し、普段は見ることのない景色に喜んでいる様子でした。



(上段左) 屋上からターミナルを見学する児童たち
(上段右) コンテナを積み、ヤード内の走行レーンに沿って走るコンテナトレーラー
(中段左) コンテナを持ち上げるトランスファークレーン
(中段中央) 見学しながら熱心にメモを取る児童の姿
(中段右) 荷役の様子を眺める児童
(下段) 荷役作業中のガントリークレーンとコンテナ船

当協会は引き続き、会員会社や海事関連企業などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上